

1～4年芸術教科担当 大橋 芳枝 講師 の紹介

芸術と探究をつなぐ力

大橋講師は、1から4年生までの音楽および図画工作の授業を担当し、子どもたちに豊かな芸術体験を提供しています。単なる技能習得ではなく、子どもたちが芸術に触れる喜びを心から感じることで、とても質の高いものです。教室では子どもたちが自らの感性を存分に働かせ、黙々と制作に没入する姿が日常的に見られます。その姿には、学ぶ喜びそのものが宿っています。

さらに持筆すべきは、大橋講師のご家庭における教育実践です。お子様の学びの記録からは、自然体験を通じた強い感動や探究心、そして科学的な観察力が見事に育まれている様子が読み取れます。例えば、水晶採集の体験において、感動を言葉にし、観察を深め、さらには「なぜ」という問いを生み出す学びが展開されています。これは、体験・記録・思考が一体となった、理想的な探究的学びの姿であり、学校教育においても目指すべきモデルです。

こうした実践は、子どもの「感動」を出発点としながら学びへと自然に導くものであり、高度な教育観に支えられています。また、同じ体験の中でも、それぞれの子どもの興味や視点を尊重し、多様な学びを引き出している点も、教育者としての卓越した力量を示すものと思います。

加えて、大橋講師はご自身が二度にわたりフランスへ留学し、現地の展覧会に作品を出品するなど、現代美術作家としても活躍してきた人物です。まさに芸術のプロフェッショナルであり、その本物の経験が授業の深みを一層高めています。

このように、家庭と学校の双方において、子どもの感性と探究心を豊かに育てる大橋講師の実践は、本校の教育に大きな示唆を与えるものです。そして、このような稀有な人材が小原中部小学校に在籍していることに、深いありがたみと誇りを感じています。



大橋芳枝先生のご家庭における教育実践について (理科教育の視点からの成果と本校への示唆)

2026/05/22 校長 釜屋 雄一

1 本報告の目的

本報告は、本校教職員である大橋芳枝先生のご家庭における教育実践について、お子様のレポート内容をもとに理科教育の専門的観点から分析し、その優れた点を全教職員で共有することを目的とする。

2 レポートに見られる学習の実際

提出されたレポートからは、以下のような学びの様相が読み取れる。

(1) 主体的な自然体験

水晶採集の体験を通して、「ここは天国だというくらいすてき」「35こ以上とれた」など、強い感動や達成感を言語化している。

これは単なる知識習得に留まらず、自然との直接的な触れ合いによる「内発的動機付け」が極めて高い状態にあることを示している。

(2) 科学的観察力の育成

記録には、色（透明、紫、灰黒色）、形（六角形）、光沢（ガラス光沢）、硬さ（7）といった、鉱物観察の基本項目が正確に整理されている。

さらに、「顕微鏡で見るとダイヤモンドみたいにきらきら」という記述から、観察の視点が肉眼から拡大観察へと発展していることがわかる。これは理科における「見方・考え方」が着実に育成されている証である。

(3) 探究的な問いの生成

特に注目すべきは、「なぜこんなに水晶がとれるんだろう」という問いの発生である。この問いは、単なる事実認識を超え、地質条件や生成過程への関心へとつながる極めて価値の高い問いである。

理科教育において最も重要な「問いの質」が高いレベルで育っている点は、特筆に値する。

3 家庭教育としての卓越性

本実践の優れている点は、以下の通りである。

(1) 体験・記録・思考の一体化

大橋先生は、現地での実体験・観察記録の整理・気づきや疑問の表出・・・という理学的探究過程を家庭内で自然に成立させている。これは学校教育で目指す「探究的学び」の理想的なモデルである。

(2) 子どもの感動を出発点にした学習設計

レポートには、感動・驚き・疑問が一連の流れとして現れている。特に、「天国のよう」という感情表現から科学的観察へと無理なく接続されている点は、極めて高度な指導観である。

(3) 兄弟それぞれの学びの尊重

同じ体験でありながら、一人は「美しさ」に着目、一人は「数量や分布」「疑問」に着目しており、多様な学びの視点が引き出されている。これは個に応じた教育の好例である。

4 本校教育への示唆

本実践から、本校として学ぶべき点は多い。

(1) 実体験の重視

教室内における指導においても、フィールド観察や実物教材の活用を一層推進する必要がある。

(2) 問いを生む指導

知識の伝達に留まらず、「なぜそうなるのか」を子ども自身が考える場面設定が重要である。

(3) 家庭との連携強化

本事例は、家庭が学びの場として大きな可能性をもつことを示している。学校としても、家庭での体験の価値化や学びの共有を積極的に進めていきたい。

5 まとめ

大橋芳枝先生の教育実践は、理学的探究の本質を捉え、子どもの感動を起点にし、習得と探究を高度に統合した極めて優れたものである。

これは単なる家庭教育の範囲を超え、本校の教育の在り方そのものに示唆を与える実践である。

教職員の皆様に対しては、本事例を参考にしながら、「子どもが自ら学びたくなる授業づくり」を求め続けてほしいと、改めて願いをかける。

鉱物名 (水晶)

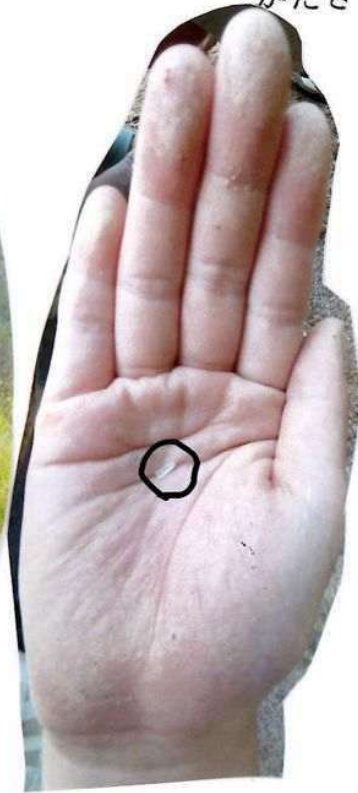
4年大橋系太

色: 透明白からこき反へくろ色

光たく: カラス光沢

かたち: 六角形

かたさ: 7



採集した場所 小原中部小学校
水晶山

8年5月17日(日)



私は水晶を取るときも

ここは天国だ」というくら

いすきでした。ほめてもほめて

もあきないくらいです!!

←けんぴきょうで見つかったダイヤモンドが
たんにきらきらしてました。

4年大橋 蒼依

鉱物名 (水晶)

色: とう明

かたち: 六角形

)

光たく: カラス光沢

かたさ: 7



採集した場所 小原中部小学校

8年 5月17日(日)



水晶は石をわって、水晶を見つけ

出すと思、たけど地面にもたくさん

落ちていたので35こい上もとれました。

どうして小原中部小学校の水晶山は
こんなに水晶がとれるんだろう。